

2、目標達成計画

事業所名 いきいきハウス池尻

作成日 令和 8 年 3 月 2 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	日常的な声かけや職員間のコミュニケーションについて、状況によっては入居者への影響に十分配慮できていない場面が生じる可能性がある。	入居者の穏やかで安心・満足のある暮らしを支えるため、節度ある声かけと良好な職員間コミュニケーションを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇や声かけについて職員間で確認・共有する。 ・入居者の前での職員間会話に配慮する。 ・ミーティングで対応事例を振り返る。 ・穏やかな生活環境づくりを意識した支援を徹底する。 	12ヶ月
2	42	車椅子使用の入居者について、食事姿勢が十分に検討されていない場合があり、身体機能維持や誤嚥予防の観点から改善の余地がある。	可能な範囲で食卓用椅子への移乗を行い、足底が床につく安定した座位で食事ができる支援体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に身体状況を評価し、安全に移乗可能か検討する。 ・食事時の姿勢を見直し、足底接地・安定座位を意識する。 ・必要に応じてクッション等で姿勢調整を行う。 ・職員間で適切な食事介助方法を共有する。 	12ヶ月
3	28	理念に沿った支援は行っているが、本人や家族の意向を踏まえた課題分析の結果が記録上十分に明確化されていない場合がある。また、短期目標が抽象的となることがあり、達成状況の評価が行いにくい。	本人・家族の意向に基づいた課題分析を明確にし、達成可能で具体的な短期目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント時に本人・家族の意向を明確に記録する。 ・課題分析の過程をケアプラン上に具体的に記載する。 ・短期目標は具体的かつ評価可能な内容とする。 ・定期的に目標達成状況を振り返り、必要に応じて修正する。 	12ヶ月
4	35	終末期の過ごし方に関する本人の意思確認が、十分なタイミングで行われていないケースがある。家族構成の多様化に伴い、意思決定支援の体制整備も必要である。	本人が意思表示できる段階で終末期の意向を確認し、家族・関係者と共有しながらその人らしい最期を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時や状態安定時に終末期の希望を確認する。 ・確認内容を記録し、家族と共有する。 ・状態変化時には意向の再確認を行う。 ・医療機関等と連携し、支援方針を共有する。 	12ヶ月
5	4	運営推進会議は公的介護保険制度に基づく重要な会議として開催しているが、その目的や位置づけが全家族に十分周知されているとは言えず、参加や意見表出が限定的となっている。	運営推進会議の趣旨を全家族に周知し、入居者を共に支える家族として積極的な参加と意見表出が図られる体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の目的・法的位置づけを文書等で改めて周知する。 ・開催日程を早期に案内し、参加しやすい環境を整える。 ・会議内で家族が意見を述べやすい進行や意見募集方法を工夫する。 ・会議内容を報告書として共有し、参加できなかった家族にも情報提供する。 	12ヶ月
6	37	災害時の地域要援護者の受入可能人数や支援内容について具体的な整理が十分ではなく、防災課の備蓄や行政支援体制についての情報共有も限定的である。	災害時における受入可能人数や支援内容を明確にし、地域・行政との協力体制を具体化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で受入可能人数や対応範囲を協議する。 ・防災課の備蓄食料や支援内容について情報確認を行う。 ・地域・行政と連携し、災害時の連絡体制を整理する。 ・防災訓練等で想定確認を行う。 	12ヶ月